**注）本頁は、申請書の表紙（１頁目）です。**

様式７

（レアメタルリサイクル賞）

**２社以上の連名で申請する場合は、本頁を各社ごとに作成ください。**

**注）本頁中の注釈【注）で始まる文章】は申請の際にすべて削除ください。**

秘

　　資源循環技術・システム表彰　レアメタルリサイクル賞　申請書

　　年 月 日

一般社団法人産業環境管理協会　御中

|  |  |
| --- | --- |
| （ふりがな）①会社名又は事業所名 |  （印） |
| ②〒、所在地、電話番号 |  |
| （ふりがな）③代表者　役職、氏名 |  　 （印） |
| ④資本金又は基本財産 |  百万円 |  ⑤従業員数 |  人 |  ⑥出荷額 |  　　　 百万円／年 |
| （ふりがな）⑦連絡者　所属部署、役職、氏名、住所、電話番号、ＦＡＸ番号、〒、ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ | 　　　　　　　　　　　　　　　　電 話　　　　　　　　　　　　　　　　ＦＡＸ　　　　　　　　　　　　　　　　 E-mail 〒、住所（*②の〒所在地と同じ場合は省略可*） |
| ⑧申請テーマ名（ふりがな）（申請内容を端的に表現）【事業の段階】 | 【*注）要素技術開発、パイロット試験、実証実験、商業的事業のいずれかを記入*】 |
| ⑨対象レアメタル・重要鉱物名（鉱種） |  | ⑩対象技術・製品名（事業における処理対象物。コンプレッサ等。） |  |
| ⑪対象の処理等の種類*（事業の処理（回収、選別、代替技術、資源循環に係る技術・製品等））* |  | ⑫対象の技術・製品における対象鉱種の含有量 | g／台、％等 |
| ⑬対象~~製品~~⑩の処理量（又は試験量） | Kg、ｔ等 | ⑭対象⑪の処理量、品位*（不純物を含有の場合）* | Kg、ｔ、品位％等 |
| ⑮当該技術開発等に伴う試験、事業等の開始年月 |  | ⑯当該技術開発等に伴う試験、事業等の継続年数 |  |
| ⑰国等による補助事業の名称、補助者、補助金額*（ない場合には、なしと記述）* | 名称、年度：補助者：補助金額：　　　　　　　　万円 |
| ⑱本制度に係る過去の表彰実績*（受賞年度、賞の種類*） |  | ⑲他の制度による　過去の表彰実績（制度名称、年度） |  |
| ⑳所属団体名 |  | 本表彰の募集を何 　で知りましたか |  |
| 申請内容、関連事項の公表実績*（ホームページ名称・URL、出版物名等）* |  |

**注）本頁は、本文（２頁目以降）記述要領の説明です。**

**以下の項目について、申請テーマの事業内容とその特徴を記述ください。**

**該当なしの場合は、「該当なし」と記述ください。**

**また、追加項目があれば、追加ください。**

**本頁中の注釈【注）で始まる文章】は申請の際にすべて削除ください。**

**本文の構成**

１．要旨

２．対象となるレアメタル、重要鉱物が含まれる資源（使用済製品等）

資源循環、環境負荷削減に寄与していること（例えば、天然資源・廃棄物の削減、再利用、リサイクだけでなく、回収、選別、精錬、代替等技術も含む）。

３．従来の処理方法

４．事業（要素技術開発、パイロット試験、実証実験等）の実施内容

（２社以上の連名の場合は、各社の役割分担が判るように記述）

 (1) 事業の狙い、目的等

 (2) 試験、処理、製造等の工程

注）フローシート、図絵等を用いてわかりやすく説明

　(3) レアメタル、重要鉱物資源の入手方法、元の資源（廃棄物、使用済製品等）の投入量、資源循環への寄与（例えば、天然資源投入・エネルギー使用の削減、回収量増加、選別効果、精錬等技術の向上、代替品の開発と効果、廃棄物削減・再利用・リサイクル等の処理効果及び環境負荷の軽減等）、及び品位・特徴等。

　(4) 技術・システムの内容、ポイント、新規性、同種事業との相違点（改善点）

注）図絵等を用いてわかりやすく説明）　**⇒　重要**

　(5) 特許等の有無

　(6) 保有設備の性能等

　(7) 事業の収益性

注）要素技術開発、パイロット試験、実証実験等の場合は得られた結果に基づいた実機時のコスト評価。

５．事業（要素技術開発、パイロット試験、実証実験等）実施による資源循環等への効果

６．市場性

　(1) 技術・製品の品質（有用性、品質、安全性、無害性）

　(2) 天然資源の利用、従来技術・製品との比較、販売方法等

　(3) 地域への貢献等

　　　注）要素技術開発、パイロット試験、実証実験の場合は見通し

７．対象となる資源の収集・調達方法

　(1) 収集・調達方法、ルート

　(2) 安定確保策

注）要素技術開発、パイロット試験、実証実験の場合は見通し

８．二次環境汚染防止のための対策

　(1) 二次廃棄物の発生・処理・処分状況

　(2) 二次公害防止のための対策

注）要素技術開発、パイロット試験、実証実験の場合は見通し

９．今後の動向

事業運営上の問題点と対応策、将来構想